

1 題材名 思いを形に 生活に役立つ布製品

2 本題材の目標

- (1) 目的に応じた布の選び方や製作手順について理解するとともに、ミシンによる目的に応じた縫い方及び用具の安全な取扱いを理解し、適切にできる。
- (2) 作品を仕上げるための製作手順や縫い方などについて問題を見出し、目的に合った製作計画を考え、製作を工夫する。
- (3) 自分や身近な人の生活を豊かにしようと、ミシン縫いの仕方及び製作計画について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとする。

3 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
目的に応じた布の選び方や製作手順について理解するとともに、ミシンによる目的に応じた縫い方及び用具の安全な取扱いを理解し、適切にできる。	作品を仕上げるための製作手順や縫い方などについて問題を見出し、目的に合った製作計画を考え、製作を工夫し、課題を解決する力を身に付けている。	自分や身近な人の生活を豊かにしようと、ミシン縫いの仕方及び製作計画について、課題の解決に向けて主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、生活を工夫し、実践しようとしている。

4 題材について

(1) 題材観

国立教育政策研究所教育課程研究センターでは、21世紀を生き抜く力を「21世紀型能力」と名付け、これからの時代を生きていく児童が身に付けられるよう指導をしていく必要があるとしている。変化の激しい社会においては、学校で学んだ知識や技能を定型的に適用して解ける問題は少なく、問題に直面した時点で集められる情報や知識を入手し、それを統合して新しい答えを創り出す力を育成することが求められている。この「21世紀型能力」の考え方に基いて改定された小学校学習指導要領解説家庭科編（平成29年7月）では、「家族や家庭、衣食住、消費や環境などについて、日常生活に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする」²⁾ことを目標の一つとしていると述べている。教科書や教師の言葉で得た知識だけでなく、「なぜそうするのか」と根拠を基に理解し、納得できるようにすることが大切であると考え。（中略）

そこで、本研究では児童のミシン縫いに関する知識の「分かったつもり」が「納得」に変わるよう、科学的な裏付けから「なぜそうするのか」理由を理解できるような教具の工夫をする。製作計画の段階において、何種類かの布やモデル作品を用意し、児童が実際に見たり触ったりすることで、目的に合った布の選び方や製作手順について実感を伴って理解できるようにする。以上のような手立てを基に、ミシン縫いに必要な理解を図ることができると考え、本題材を設定した。

(2) 児童観

(省略)

(3) 指導観

「なぜそうするのか」と理由を考えられるような手立てを複数準備し、その中で有効である手立ては何かを模索したい。そのために、まず「目的に応じた布の種類を考える時間」を設ける。これまでの指導において、生地の種類や特徴について教科書を使用して指導してきた。今回は特徴の異なる布を実際に触ってトートバッ

グに適した布を考えることにより、目的に応じた布の選び方を理解できるようになると考える。厚さや丈夫さ、伸びにくさに着目できるよう、身近にある布と比較しやすい布を選ぶことに留意し、キルティング、綿麻、綿のニット3種類を用意した。また、布の特徴を整理しトートバッグに適した布かどうか判定していく活動でマトリックス（思考ツール）を活用する。

次に、「ゆとりや縫いしろを考える時間」を設ける。根拠を基にゆとりや縫いしろの必要性が理解できるように、バッグに入れる物と同じ大きさに作成したトートバッグを用意した。実際にものを出し入れすることで実感を通して不便さに気付けるようにするためである。また、ゆとりや縫いしろをどのくらい確保し、用意する布はどれくらいの大きさなのかを視覚的に理解できるように、教師の説明用として、色画用紙を用いる。

最後に、「製作手順を考える時間」を設ける。製作手順の中でも、縫う段階での手順に焦点を当てる。グッドモデルのトートバッグを用意し、実物を見たりさわったりしながら手順を考えられるようにする。また、中表で縫うことや、わきから最初に縫うことの根拠を理解できるように、不織布を用いた試し作りを取り入れる。

以上の手立てにより、題材の目標達成をめざす。

5 題材の指導計画（12時間扱い）

次	時	学習内容・活動	知	技	思	態	評価方法・留意点等
1	1	<p>1 身の回りの布製品を観察し、本時の学習課題をつかむ。 製作するために必要な条件はなんだろう。</p> <p>2 製作するために必要な条件を考える。 ・可愛いデザイン ・丈夫さ ・大きさ</p> <p>3 本時のまとめをする。 製作するときは、目的に合った布の種類や大きさ、デザインなどを考えることが必要だ。</p> <p>4 本時の学習を振り返る。</p>					<ul style="list-style-type: none"> ・大きさや布の種類に気付けるよう、比較するための様々な布製品を用意する。(児童が日常で使用している布製品も利用する。) <p>◎ ◎身の回りの生活に役立つ布製品に関心をもち、各自の製作に必要な条件を見いだそうとしている。(態)【観察、ワークシート】</p>
	2	<p>1 本時の学習課題をつかむ。 製作計画を立てるときには、どんなことに気を付けるとよいだろう。</p> <p>2 トートバッグ作りに適した布の種類を考える。 ・この布だと、重い本を入れたときに伸びてしまう。 ・丈夫さが必要なのかな。</p> <p>3 ゆとりや縫いしろの必要性について考える。 ・入れたい物とぴったりな大きさのバッグだと出し入れしづらい。 ・ゆとりやぬいしろ部分は何cmくらいとればよいか。</p> <p>4 本時のまとめをする。 製作計画を立てるときは、布の特徴やゆとり、ぬいしろに気を付ける。</p> <p>5 本時の学習を振り返る。</p>					<ul style="list-style-type: none"> ・布の素材に着目できるように、性質の異なる3種類の布を用意する。 ・ぬいしろに着目できるように、トートバッグ(完成品)と同じ大きさに裁断した布を用意する。 ・ゆとりの必要性に気付けるように、ゆとりのあるトートバッグとゆとりのないトートバッグを用意し、物の出し入れのしやすさを比較できるようにする。 <p>○ 目的に合った布の選び方やゆとりの必要性を理解している。(知)【観察、ワークシート】</p>
	4 本時	<p>1 本時の学習課題をつかむ。 トートバッグはどのような手順で作られているのだろう。</p>					

		<p>2 製作手順を考える。</p> <p>(1) 個人で予想を立てる。</p> <p>(2) グループで製作手順を考える。</p> <p>3 全体で考えを共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ①半分に折る ②わき ③くちを折る ④くち ⑤持ち手 ・わきとくちを縫うまでは、中表にする。 ・端の部分は返し縫いをしている。 ・ポケットを付けるときは、わきを縫う前に付ける。 ・まちをつけたい場合の方法を教科書で確認する。 <p>4 本時のまとめをする。</p> <p>トートバッグは、わき→くち→持ち手の順でぬい、はしは返し縫いをする。</p>			<p>・製作のイメージが持ちやすくなるように、不織布を渡し、実際に作業できるようにする。</p> <p>★ステップ・チャート</p> <ul style="list-style-type: none"> ・Aのグループ ポケットを縫う場合は、どのタイミングで付けるとよいか ・Bのグループ 不織布を使って大まかな手順について考える ・Cのグループ 実物のトートバッグを利用し、最初に縫うところを考える。 <p>・縫う手順を考えられない、理解できない児童には、実物のトートバッグを裏返しにして確認するよう助言する。</p> <p>◎製作手順や縫い方について、手本をよく見たり操作したりしながら考え、課題の解決に向けて工夫している。(思)【観察、ワークシート】</p>
	5	<p>1 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>使いやすいトートバッグを作るための製作計画を立てよう。</p> <p>2 前時までの学習を振り返り、製作計画に必要な事項を確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・入れたい物の大きさ ・ゆとり ・ぬいしろ (わき2cm ずつ、くち6cm) ・縫う順番 <p>3 製作計画を考える。</p> <p>4 ここまでの学習を振り返る。</p>		○	<p>○入れたい物の形や大きさ、ゆとりを踏まえ、製作計画を作成している。(技)【ノート】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・計画を立てられない児童には、何を入れたいかを考え、入れたい物の大きさを確認するよう助言する。
2	6 7 8 9 10 11	<p>1 本次の学習課題をつかむ。</p> <p>計画を確認しながら、トートバッグを作ろう。</p> <p>①しるしつけ、布を裁つ</p> <p>②まち針のうち方と糸の通し方</p> <p>③わきを縫う</p> <p>④袋のくちを縫う</p> <p>⑤持ち手をつける</p> <p>⑥糸の始末とアイロンかけ</p>		○ ◎	<ul style="list-style-type: none"> ・ミシンの上糸下糸の通し方は、実物投影機で教師の手元を映した後、動画を入れたタブレットで自由に確認できるようにする。 ・製作途中でアドバイスし合う時間を設け、修正できるようにする。 ・つまづいている児童には、前時に作成した型紙をもとにするしつけ方の手本を見せる。 <p>○ミシンを用いた直線縫いで製作することができる。(技)【作品】</p> <p>◎目的に応じてミシンを用いた直線縫いで製作することができる。(技)【作品】</p>
3	12	<p>1 本時の学習課題をつかむ。</p> <p>製作を通して学んだことを生活に生かそう。</p> <p>2 発表交流会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自分の作品の改善点を見つける。 ・友達の作品の工夫点を見つける。 ・友達の作品のよいところをワークシートに書く。 <p>3 布製品のリフォームについて考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ごみが減る。 ・形を変えることで、思い出の品を長く使うことができる。 ・家族のプレゼントにもなる。 <p>4 本題材の振り返り</p>		◎	<p>◎自分の作品の改善点や友達の作品のよいところを進んで見つけ、次の製作や生活の中で生かしたいことを書いている。</p> <p>(態)【観察、ワークシート】</p>

